

SDGs未来都市等進捗評価シート

2018年度選定

神奈川県鎌倉市

2021年8月

SDGs未来都市計画名

鎌倉市SDGs未来都市計画

自治体SDGsモデル事業

持続可能な都市「SDGs未来都市かまくら」の創造

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

鎌倉市SDGs未来都市計画

(2) 2030年のあるべき姿

『古都として風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち』づくりが進み、「住みたい・住み続けたいまち」、「選ばれるまち」となっている。また、鎌倉を中心に東京圏とは異なる「鎌倉・湘南」といった新たな圏域が形成されている。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

経済		社会		環境	
ゴール5	ターゲット5.b	ゴール5	ターゲット5.1,5.4,5.5	ゴール7	ターゲット7.2
ゴール8	ターゲット8.2,8.3,8.9	ゴール10	ターゲット10.2	ゴール11	ターゲット11.4,11.a
ゴール9	ターゲット9.2,9.5	ゴール11	ターゲット11.7	ゴール12	ターゲット12.5,12.7
		ゴール17	ターゲット17.14,17.17	ゴール13	ターゲット13.1,13.3

(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	市内事業所従業者数（暫定） 【5.b、8.2、8.3、8.9、9.2、9.5】	2014年 68,949 人	2020年 経済センサスの調査が 2021年度実施、2022年 度結果公表のためなし	2030年 72,213 人	—
2	市内事業所数（暫定）【5.b、 8.2、8.3、8.9、9.2、9.5】	2014年 7,439.0 件	2020年 経済センサスの調査が 2021年度実施、2022年 度結果公表のためなし	2030年 7,791 件	—
3	「希望する職場で就業できている」と 感じる市民の割合（暫定） 【5.b、8.2、8.3、8.9、9.2、9.5】	2017年度 15.5 %	2020年 市民アンケート未実施の ためなし	2030年 50 %	—
4	市内事業所での正社員率（暫 定）【5.b、8.2、8.3、8.9、 9.2、9.5】	2014年 70.0 %	2020年 集計中 （公表時期未定）	2030年 71.3 %	—
5	鎌倉市に住み続けたいと思う人の割合（暫 定）【5.1、5.4、5.5、10.2、11.7、 17.14、17.17】	2017年度 86.5 %	2020年 市民アンケート未実施の ためなし	2030年 87.9 %	—
6	「地域におけるコミュニティ活動（自治会・町 内会・NPO活動など）が盛んなまち」と 感じている市民の割合（暫定）【5.1、 5.4、5.5、10.2、11.7、17.14、17.17】	2013年度 60.9 %	2020年 市民アンケート未実施の ためなし	2030年 71.5 %	—
7	鎌倉市を応援する気持ち（鎌倉市へのふる さと寄附金の額）（暫定）【5.1、5.4、 5.5、10.2、11.7、17.14、17.17】	2016年度 175,016 千円	2020年 1,086,068 千円	2030年 350,000 千円	310%
8	鎌倉市が自然的環境を保全し、市民がみど りとふれあえるよう積極的な活用を図っている と思う人の割合（暫定）【7.2、11.4、 11.a、12.5、12.7、12.8、12.b、13.1、 13.3】	2017年度 57 %	2020年 市民アンケート未実施の ためなし	2030年 70 %	—
9	緑地保全基金への寄附額（暫定）【7.2、 11.4、11.a、12.5、12.7、12.8、12.b、 13.1、13.3】	2016年度 3,769 千円	2020年 6,108 千円	2030年 3,851 千円	159%
10	ごみの焼却量（暫定）【7.2、11.4、 11.a、12.5、12.7、12.8、12.b、13.1、 13.3】	2016年度 36,384 トン	2020年 29,994 トン	2030年 28,854 トン	104%
11	リサイクル率（暫定）【7.2、11.4、11.a、 12.5、12.7、12.8、12.b、13.1、13.3】	2016年度 47 %	2020年 集計中 （2022年度公表予 定）	2030年 51 %	—
12	公共建築物の耐震化率（災害時の拠点と なる施設）（暫定）【7.2、11.4、11.a、 12.5、12.7、12.8、12.b、13.1、13.3】	2016年度 69.3 %	2020年 97.6 %	2030年 100 %	97%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

現状値として数値が把握できた4項目のうち3項目は、2030年の目標値を既に達成している。しかしながら、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により市民アンケートを実施できなかったため、数値の把握ができていない項目があり、これらの項目については、直近の値から推測するとまだまだ達成には努力が必要であると認識している。特に経済・コミュニティ関連のものは、コロナ禍による観光客の激減などによる産業環境の変化の影響もあり、従来の手法には限界を感じている。2018年10月のプラごみゼロ宣言、2020年2月の気候非常事態宣言に即した取り組みとともに、2020年からSDGsの視点を盛り込んだ、総合計画（基本計画）をスタートさせ、SDGs全分野の推進に全庁をあげて取組んでいるところである。

市民（SDGs推進隊の活動）や事業者（商工会議所でのエコバック販売・JCとの連携）の意識も非常に高まっており、コロナ禍だからこそ推進できる分野（スクールコラボバンドやスマイルフードプロジェクト等）にも取組を広げ、SDGsの推進に取組んでいく。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2018年～2020年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2020年目標値	達成度(%)
1	持続可能な都市経営「SDGs未来都市かまくら」の創造	①市内事業所従業者数	2014年 68,949 人	2016年 68,800 人	2016年 68,800 人	経済センサスの調査が2021年度実施、2022年度結果公表のためなし	2020年 72,213 人	-
		②市内事業所数	2014年 7,439 件	2016年 7,226 件	2016年 7,226 件	経済センサスの調査が2021年度実施、2022年度結果公表のためなし	2020年 7,791 件	-
		③「希望する職場で就労できている」と感じる市民の割合	2017年度 15.5 %	13.6 %	16.8 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 50 %	-
		④市内事業所での正社員率	2014年 70 %	68 %	66 %	集計中 (公表時期未定)	2020年 71 %	-
		⑤鎌倉市に住み続けたいと思う人の割合(市民意識調査)	2017年度 87 %	87.1 %	86.9 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 88 %	-
		⑥「地域におけるコミュニティ活動(自治会・町内会・NPO活動など)が盛んなまち」と感じている市民の割合(市民意識調査)	2013年度 61 %	41.3 %	41.6 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 72 %	-
		⑦鎌倉市を応援する気持ち(鎌倉市へのふるさと寄付金の額)	2016年度 175,016 千円	424,391 千円	743,443 千円	1,086,068 千円	2020年 350,000 千円	310%
		⑧鎌倉市が自然的環境を保全し、市民がみどりとふれあえるよう積極的な活用を図っていると思う人の割合(市民意識調査)	2017年度 57 %	57 %	60.7 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 70 %	-
		⑨緑地保全基金への寄附額	2016年度 3,769 千円	5967 千円	10,315 千円	6,108 千円	2020年 3,851 千円	159%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2018年～2020年

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2020年目標値	達成度(%)
1	持続可能な都市経営「SDGs未来都市かまくら」の創造	㊸ごみの焼却量	2016年度 36,384 トン	29,992 トン	29,993 トン	29,994 トン	2020年 28,854 トン	104%
		㊸リサイクル率	2016年度 47 %	52 %	52.1 %	集計中 (2022年度公表予定)	2020年 51 %	-
		㊸公共建築物の耐震化率(災害時の拠点となる施設)	2016年度 69.3 %	95.2 %	96.4 %	97.6 %	2020年 100 %	97%
2	「働くまち鎌倉」「住みたい・住み続けたいまち鎌倉」の実現	㊸市内事業所従業者数	2014年 68,949 人	2016年 68,800 人	2016年 68,800 人	経済センサスの調査が2021年度実施、2022年度結果公表のためなし	2020年 72,213 人	-
		㊸市内事業所数	2014年 7,439 件	2016年 7,226 件	2016年 7,226 件	経済センサスの調査が2021年度実施、2022年度結果公表のためなし	2020年 7,791 件	-
		㊸「希望する職場で就労できている」と感じる市民の割合	2017年度 16 %	13.6 %	16.8 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 50 %	-
		㊸市内事業所での正社員率	2014年 70 %	68 %	66 %	集計中 (公表時期未定)	2020年 71 %	-
		㊸鎌倉市に住み続けたいと思う人の割合（市民意識調査）	2017年度 87 %	87.1 %	86.9 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 88 %	-

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2018年～2020年

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2020年目標値	達成度(%)
3	鎌倉市の魅力に磨きをかけ、新しいひとの流れをつくる	①鎌倉市が自然的環境を保全し、市民がみどりとふれあえるよう積極的な活用を図っていると思う人の割合(市民意識調査)	2017年度 57 %	57 %	60.7 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 70 %	-
		②緑地保全基金への寄付額	2016年度 3,769 千円	5,967 千円	10,315 千円	6,108 千円	2020年 3,851 千円	159%
		③ごみの焼却量	2016年度 36,384 トン	29,992 トン	29,993 トン	29,994 トン	2020年 28,854 トン	104%
		④リサイクル率	2016年度 47 %	52.1 %	52.1 %	集計中 (2022年度公表予定)	2020年 51 %	-
		⑤公共建築物の耐震化率(災害時の拠点となる施設)	2016年度 69.3 %	95.2 %	96.4 %	97.6 %	2020年 100 %	97%
4	市民自治の推進・共生社会の実現・長寿社会のまちづくり	①鎌倉市に住み続けたいと思う人の割合(市民意識調査)	2017年度 87 %	87.1 %	86.9 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 88 %	-
		②「地域におけるコミュニティ活動(自治会、町内会・NPO活動など)が盛んなまち」だと感じている市民の割合(市民意識調査)	2013年度 61 %	41.3 %	41.6 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 72 %	-
		③鎌倉市を応援する気持ち(鎌倉市へのふるさと寄附金の額)	2016年度 175,016 千円	424,391 千円	743,443 千円	1,086,068 千円	2020年 350,000 千円	310%
5	市民の安全な生活の基盤づくり	①公共建築物の耐震化率(災害時の拠点となる施設)	2016年度 69.3 %	95.2 %	96.4 %	97.6 %	2020年 100 %	97%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2018年～2020年

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

旧村上邸の運営にあたっては、市民負担を極力抑えながら、歴史的建造物及び庭園の維持・保全を図るとともに、民間活力を積極的に活用しSDGsの先行モデルプロジェクトの推進及び、鎌倉市の新たな魅力の向上をめざし、民間事業者と定期建物賃貸借契約を締結し、施設運営を行っている。

旧村上邸の活用を通じて、地域住民と共に歴史的建造物と周辺環境の保全、建物を利用する企業やワーカーと地域住民の交流による地域課題の解決、ソーシャルビジネスの育成、これらを通じたコミュニティの活性化による地域力の向上のサイクルを回し、鎌倉SDGsのモデルとすることを目指して運営にあたってきたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、予定していたものの実施が制限されてしまった。このため、イベント開催などは慎重に行う一方、オンラインを利用した新たな取り組みを行ってきたところではあるが、今後は、改めて市内事業者との連携等によるソーシャルビジネスの喚起、支援の他、SDGsつながりポイント（地域通貨）の積極活用、SDGs推進隊（小中学生によるSDGsの推進）と連携した発信などに取り組み、SDGsショーケースとして、社会課題の解決に取り組んでいく。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

2018年10月のプラごみゼロ宣言、2020年2月の気候非常事態宣言に即した取り組みとともに、2020年からSDGsの視点を盛り込んだ、総合計画（基本計画）をスタートさせ、SDGs全分野の推進に全庁をあげて取り組んでいるところである。

市民（SDGs推進隊の活動）や事業者（商工会議所でのエコバック販売・JCとの連携）の意識も非常に高まっており、コロナ禍だからこそ推進できる分野（スクールコラボランドやスマイルフードプロジェクト等）にも取組を広げ、SDGsの推進に取り組んでいく。

【補足】

「(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」のNo.1 指標名「㊸ごみの焼却量」及びNo.3 指標名「㊹ごみの焼却量」の目標値については、「鎌倉市ごみ処理基本計画」に掲載の数値を根拠としていましたが、同計画の見直しに伴い、当該数値を変更したことから、目標値についても変更しています。

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・SDGs推進隊が地域の具体的な課題に取り組んでいけることを期待する。
- ・コロナがあったので数値が取得できないという指標ではなく、入手可能な指標を検討されることが必要である。また、数値が出ているものはどれも好成績のようであるが、そうではないものも含めて数値を出すことが望まれる。

2. 自治体SDGsモデル事業

(1) モデル事業又は取組名

持続可能な都市経営「SDGs未来都市かまくら」の創造

(2) モデル事業又は取組の概要

持続可能な都市経営を推進するためには、経済・社会・環境の3分野の課題を解決し、更にそれぞれが互いに影響し合うことで相乗効果を高め、都市全体の価値・魅力を継続的に高めていくことが重要である。経済・社会・環境の3分野での取組を行うとともに、これを統合的につなぐことで、持続可能な都市経営を実現し、自律的好循環を創出することが可能となる。このため、市の最上位計画である総合計画に自治体SDGsの理念を掲げ、経済・社会・環境の三側面を好循環させる施策体系を構築するための改定（基本計画の策定）を行うとともに、改定作業の過程に徹底した市民参画を取入れ、計画を実現するための新たな仕組みづくりに取り組む。また、先行モデルプロジェクトとして、歴史的建造物を、働き、そして交わり、さらに歴史と文化を継承する場（地域資本）として改修・整備し、利用されることにより、更なる地域の経済・社会・環境が好循環する仕組みづくりに取り組む。また、広く取り組みを発信し、民間による地域資本の創造を促し、地域資本の増加、ひいては、持続可能なまちの創造を目指す。持続可能な都市経営「SDGs未来都市かまくら」の創造は、人口減少・少子高齢化、歳入減など、これから自治体が直面する厳しい環境下における自治体経営のロールモデルとなるものである。

(3) 三側面ごとの取組の達成状況

取組名	取組内容	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2020年目標値	達成度(%)
【経済】 「働くまち鎌倉」 「住みたい・住み続けたいまち鎌倉」の実現	鎌倉駅周辺、大船駅周辺と並ぶ第三の新しい拠点である鎌倉市h深沢地区のまちづくりの実現に向けた、事業計画の構築・都市計画決定に取り組む。 市の保有する公的不動産の利活用を進め、地域経済の活性化、雇用の創出、新たなライフ・ワークスタイルの発信に取り組む。	・市内事業所従事者数	68,949 人	2016年 68,800 人	2016年 68,800 人	経済センサスの調査が2021年度実施、2022年度結果公表のためなし	2020年 72,213 人	-
		市内事業所数	7,439 件	2016年 7,226 件	2016年 7,226 件	経済センサスの調査が2021年度実施、2022年度結果公表のためなし	2020年 7,791 件	-
		「希望する職場で就労できている」と感じる市民の割合	16 %	14 %	17 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 50 %	-
		市内事業所の正社員率	70 %	68 %	66 %	集計中 (公表時期未定)	2020年 71 %	-
		鎌倉市に住み続けたいと思う人の割合	87 %	87 %	87 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 88 %	-
【社会】 1 市民自治の推進・共生社会の実現・長寿社会のまちづくり (市民自治の推進) (共生社会の実現) (長寿社会のまちづくり) 2 鎌倉市の魅力に磨きをかけ、新しいひとの流れをつくる	市民参画・協働・地域福祉の増進など「市民自治」を推進するため、「つながる鎌倉条例」の策定を行い、地域課題を地域が解決する仕組みづくり。 「鎌倉リビングラボ」の仕組みを全市展開し、知己住民が中心となってエリアマネジメントを進めるための手法（コミュニティビジネス）確立、市民が地域課題や社会的課題を解決する仕組みを整える。	鎌倉市に住み続けたいと思う人の割合	87 %	87 %	87 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 88 %	-
		「地域におけるコミュニティ活動（自治会・町内会・NPO活動など）が盛んなまち」だと感じる市民の割合	60.9 %	57 %	61 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 70 %	-
		鎌倉市を応援する気持ち（鎌倉市へのふるさと寄付金の額）	175,016 千円	424,391 千円	743,443 千円	1,086,068 千円	2020年 350,000 千円	310%

2. 自治体SDGsモデル事業

取組名	取組内容	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2020年目標値	達成度(%)
【環境】 1 鎌倉市の魅力に磨きをかけ、新しいひとの流れをつくる 2 市民の安全な生活の基盤づくり	文化財や歴史的風土としての価値の保護だけでなく、市民・事業者・行政等が一体となって、歴史的遺産と人の暮らしが共生するまちづくりを進め、市民や来訪者が鎌倉の魅力や価値を共有することで、これらの遺産を確実に守り、厚生に伝えることにつなげる。	鎌倉市が自然的環境を保全し、市民がみどりとふれあえるよう積極的な活用を図っていると思う人の割合	57 %	57 %	61 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 70 %	-
		緑地保全基金への寄付額	3,769 千円	5,967 千円	10,315 千円	6,108 千円	2020年 3,851 千円	159%
		ごみの焼却量	36,384 トン	29,992 トン	29,993 トン	29,994 トン	2020年 28,854 トン	104%
		リサイクル率	47 %	52 %	52 %	集計中 (2022年度公表予定)	2020年 51 %	-
		公共建築物の耐震化率（災害時の拠点となる施設）	69.3 %	95.2 %	96.4 %	97.6 %	2020年 100 %	97%

(4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

【詳細は後掲】2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）（6）「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等【補足】

「（3）三側面ごとの取組の達成状況」の【環境】に記載の「ごみの焼却量」の2020年目標値については、「鎌倉市ごみ処理基本計画」に掲載の数値を根拠としていましたが、同計画の見直しに伴い、当該数値を変更したことから、目標値についても変更しています。

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

(1) 三側面をつなぐ統合的取組名

持続可能な都市経営「SDGs未来都市がまくら」の創造

(2) 三側面をつなぐ統合的取組の概要

市の最上位計画である総合計画（基本計画）に自治体SDGsの理念を掲げ、施策体系を構築するための改定を行うとともに、改定作業の過程に徹底した市民参画を取り入れ市民等への普及啓発（SDGsの概念）、計画を実現するための新たな仕組みづくりに取り組む。

また、市が取り組むSDGsの先行モデルプロジェクトとして、市内の歴史的建造物の保存・活用に取り組み、市民等に広く概念をPRするとともに、行政以外が主体となる鎌倉SDGsショーケース類似事業（地域資本）の増加につなげるとともに、これらの地域資本が利用促進されることにより、更なる地域の経済・社会・環境が好循環する仕組みづくりに取り組む。

(3) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

経済⇄環境	経済⇄社会	社会⇄環境
旧村上邸は企業研修所として活用するとともに、今後は個人のワークスペースとしての活用も図ることにより、企業誘致や新たなワークスタイルの創造につなげていく。また、利用者に対してマイボトルや再利用品の利用促進、地産地消・フードロスに対応した食事の提供など、環境に配慮した取組により、本市の魅力や取組（ゼロウェイスト鎌倉・気候非常事態宣言・3Rの推進）の理解につなげるとともに、事業者等と環境保全に係る取組を進めていく。	「鎌倉テレワーク・ライフスタイル研究会」において、鎌倉での魅力あるワークスタイルの発信を進めており、建長寺においてテレワークに係るイベント等を開催し、普及啓発に努めた。旧村上邸においても、新型コロナウイルス感染症を受け、企業研修だけでなく、個人を対象としたワーケーション等の事業展開についても検討していく。また、本市では市民活動も活発であり、地域経済の活性化や関係人口の創出につなげていく。	「かまくらプラごみゼロ宣言」は、ごみの焼却や埋め立てをなくしていくゼロウェイストの目標を掲げてきた環境行政をさらに推し進めるものである。宣言を受け、各自治町内会の委員との連携によりマイバッグの利用促進、市民主催イベントにおけるリユース食器への移行、本庁舎内の自動販売機からペットボトルの販売をなくし、カンやマイカップ対応自動販売機の導入、市内開催のコミュニティマーケットにおける民間事業者と連携したマイバッグ推進プログラム等を実施した。また、観光都市の側面を踏まえ、まち美化意識の向上を目的に、市民団体と清掃活動やキャンペーンを行うなど、環境保全等に係る取組を、民間事業者や市民・市民団体等と連携して展開しており、今後も取組の広がりが期待できる。

(4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

No	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2020年目標値	達成度(%)
1	【経済→環境】①鎌倉市が自然的環境を保全し、市民がみどりふれあえるよう積極的な活用を図っていると思う人の割合(市民意識調査)	2017年度 56.5 %	57 %	60.7 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 70 %	-
2	【経済→環境】②緑地保全基金への寄附額	2016年度 3,769 千円	5,967 千円	10,315 千円	6,108 千円	2020年 3,851 千円	159%
3	【経済→環境】③ごみの焼却量	2016年度 36,383 t	29,992 t	29,993 t	29,994 t	2020年 28,854 t	104%
4	【経済→環境】④リサイクル率	2016年度 47 %	52 %	52.1 %	集計中(2022年度公表予定)	2020年 51 %	-
5	【経済→環境】⑤公共建築物の耐震化率(災害時の拠点となる施設)	2016年度 69 %	95.2 %	96 %	97.6 %	2020年 100 %	98%
6	【環境→経済】①市内事業所従業者数	2014年 68,949 人	2016年 68,800 人	2016年 68,800 人	経済センサスの調査が2021年度実施、2022年度結果公表のためなし	2020年 72,213 人	-
7	【環境→経済】②市内事業所数	2014年 7,439 件	2016年 7,226 件	2016年 7,226 件	経済センサスの調査が2021年度実施、2022年度結果公表のためなし	2020年 7,791 件	-
8	【環境→経済】③「希望する職場で就労できている」と感じる市民の割合	2017年度 16 %	13.6 %	16.8 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 50 %	-
9	【環境→経済】④市内事業所での正社員率	2014年 70 %	68 %	66 %	集計中(公表時期未定)	2020年 71 %	-
10	【環境→経済】⑤鎌倉市に住みたいと思う人の割合(市民意識調査)	2014年 87 %	87 %	87 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 88 %	-
11	【経済→社会】①鎌倉市に住みたいと思う人の割合(市民意識調査)	2014年 87 %	87 %	87 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 88 %	-
12	【経済→社会】②「地域におけるコミュニティ活動(自治会・町内会・NPO活動など)が盛んなまち」と感じている市民の割合(市民意識調査)	2013年度 61 %	41.3 %	41.6 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 72 %	-

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

No	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2020年目標値	達成度(%)
13	【経済→社会】③鎌倉市を応援する気持ち(鎌倉市へのふるさと寄附金の額)	2016年度 175,016 千円	424,391 千円	743,443 千円	1,086,068 千円	2020年 350,000 千円	310%
14	【社会→経済】①市内事業所従業者数	2014年 68,949 人	2016年 68,800 人	2016年 68,800 人	経済センサスの調査が2021年度実施、2022年度結果公表のためなし	2020年 72,213 人	-
15	【社会→経済】②市内事業所数	2014年 7,439 件	2016年 7,226 件	2016年 7,226 件	経済センサスの調査が2021年度実施、2022年度結果公表のためなし	2020年 7,791 件	-
16	【社会→経済】③希望する職場で就労できていると感じる市民の割合	2017年度 16 %	13.6 %	16.8 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 50 %	-
17	【社会→経済】④市内事業所での正社員率	2014年 70 %	68 %	66 %	集計中（公表時期未定）	2020年 71 %	-
18	【社会→経済】⑤鎌倉市に住み続けたいと思う人の割合(市民意識調査)	2017年度 87 %	87.1 %	86.9 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 88 %	-
19	【社会→環境】①鎌倉市が自然的環境を保全し、市民がみどりふれあえるよう積極的な活用を図っていると思う人の割合(市民意識調査)	2017年度 57 %	57 %	60.7 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 70 %	-
20	【社会→環境】②緑地保全基金への寄附額	2016年度 3,769 千円	5,967 千円	10,315 千円	6,108 千円	2020年 3,851 千円	159%
21	【社会→環境】③ごみの焼却量	2016年度 36,384 t	29,992 t	29,993 t	29,994 t	2020年 28,854 t	104%
22	【社会→環境】④リサイクル率	2016年度 47 %	52 %	52.1 %	集計中（2022年度公表予定）	2020年 51 %	-
23	【社会→環境】⑤公共建築物の耐震化率（災害時の拠点となる施設）	2016年度 69 %	95.2 %	96.4 %	97.6 %	2020年 100 %	98%
24	【環境→社会】①鎌倉市に住み続けたいと思う人の割合(市民意識調査)	2017年度 87 %	87.1 %	86.9 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 88 %	-
25	【環境→社会】②「地域におけるコミュニティ活動(自治会・町内会・NPO活動など)が盛んなまち」だと感じている市民の割合(市民意識調査)	2013年度 61 %	41.3 %	41.6 %	市民アンケート未実施のためなし	2020年 72 %	-
26	【環境→社会】③鎌倉市を応援する気持ち(鎌倉市へのふるさと寄附金の額)	2016年度 175,016 千円	424,391 千円	743,443 千円	1,086,068 千円	2020年 350,000 千円	310%

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

(5) 自律的好循環の形成に向けた取組状況

旧村上邸の運営にあたっては、市民負担を極力抑えながら、歴史的建造物及び庭園の維持・保全を図るとともに、民間活力を積極的に活用しSDGsの先行モデルプロジェクトの推進及び、鎌倉市の新たな魅力の向上をめざし、民間事業者と定期建物賃貸借契約を締結し、施設運営を行っている。

旧村上邸の活用を通じて、地域住民と共に歴史的建造物と周辺環境の保全、建物を利用する企業やワーカーと地域住民の交流による地域課題の解決、ソーシャルビジネスの育成、これらを通じたコミュニティの活性化による地域力の向上のサイクルを回し、鎌倉SDGsのモデルとすることを旨として運営にあたってきたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、予定していたものの実施が制限されてしまった。このため、イベント開催などは慎重に行う一方、オンラインを利用した新たな取り組みを行ってきたところではあるが、今後は、ワーケーション等の新たなワークスタイルへの対応や、市が実施する地域通貨事業、若年層を対象とした事業との連携により、SDGsショーケースとして、社会課題の解決に取り組んでいく。

なお、第17回土地活用モデル大賞（主催：一般社団法人都市みらい推進機構、後援：国土交通省）に応募し、都市みらい推進機構理事長賞を受賞した。

(6) 「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

SDGsの視点を取り入れた第4期基本計画を2020年からスタートさせ、全庁的に全ての業務にSDGsの観点をもって取り組んだ。策定の過程において、従来の取り組みをさらに強化させることが必要であるとした、エンカル消費やひきこもり対策をはじめとする生活困窮への対応、共生社会の構築などの取り組みに注力した。具体的には、エンカル消費については、本市ホームページにエンカル消費のページをアップしたほか、講演会を行うなど周知啓発に努めた。また、生活困窮への対応については、ひきこもりの状態にある方の相談体制の整備や、自立支援事業の推進、食料支援などを行った。また、共生社会の構築については、条例制定等の制度構築とともに障害者二千人雇用の推進、パートナーシップ宣誓制度の創設など、市民の皆様へ寄り添う体制整備などに取り組んだ。

総合計画にSDGsの視点を盛り込むことが一般化しつつある中、本市の取組についての問い合わせも多く、本市が策定過程で経験したノウハウの共有に努めた。

旧村上邸の活用手法については、市所有の低未利用地の活用にあたっての規範として環境・経済・社会の三側面の好循環をまわすことを前提条件とするなど、本市の業務全体へと広げることができた。

また、SDGsの推進に取り組むための説明会などで旧村上邸の活用事例を紹介することで、幅広い世代に正しくわかりやすい理解を促すことができ、本市におけるこれまでの様々な市民の営みこそがSDGsであり、それを継承していくことの重要性を改めて理解を得ることに繋がった。

【補足】

「(4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」のNo.3「【経済→環境】③ごみの焼却量」及びNo.21「【社会→環境】③ごみの焼却量」の2020年目標値については、「鎌倉市ごみ処理基本計画」に掲載の数値を根拠としていましたが、同計画の見直しに伴い、当該数値を変更したことから、目標値についても変更しています。

(7) 有識者からの取組に対する評価

・旧村上邸の活用とリビングラボ展開が結びついていくことを期待する。

・旧村上邸の活動が当初予定とどう変わったのか、どのように対処したのが良かった／悪かったのか、という検証をしっかりと行うことで、それも含めてモデルとなるように努めることを期待する。また、鎌倉ではこれ以外にもモデルとなる事業が動き出しているようなので、そうした活動もSDGs達成へ結び付けられるべく、しっかりとSDGを軸とした政策を打ち立てられることを期待する。